

2019年度事業資金分配団体向け 事後評価研修

2022年6月28日
JANPIA事業部 評価チーム



JANPIA

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構



第一部の説明は評価ハンドブック～事後評価編～に沿って説明します。

<https://www.janpia.or.jp/hyouka>



●休眠預金活用事業における評価の振り返り

- 自己評価の振り返り
- 自己評価の目的
- JANPIAにおける自己評価の活用

●JANPIAでは「事後評価」をどのように考え設計したか ～押さえるポイント7つ～

自己評価

歩
評価の
実施

◎
成果の
可視化

事業の実施段階

評価の活用

評価の内容

事業計画段階

- ・ 事業計画の精緻化
- ・ 計画内容の修正、変更
- ・ 評価計画の作成

事前評価

- ・ 社会課題の分析
- ・ 受益者のニーズ把握
- ・ セオリーオブチェンジ（ToC）／
ロジックモデル（LM）の検討
- ・ 事業設計（ロジック）の妥当性
- ・ 事業計画（予算、体制、スケジュールなど）の妥当性

実施段階

- ・ 事業進捗状況の確認
- ・ 計画内容の修正、改善
- ・ 予算、人材などの資源配分
の見直し

中間評価

- ・ アウトカムの発現状況の確認
- ・ 実施状況の適切性
- ・ 成功要因と課題の検証
- ・ 事業改善に必要な検証（事業設計図、ニーズ分析など）

終了段階

- ・ 成果の達成状況の確認
- ・ 事業継続する場合の事業改善
- ・ 汎用性のある知見・教訓の
共有、活用促進

事後評価

- ・ アウトカムの達成度
- ・ 波及的・副次的・想定外の成果
- ・ 事業の効率性
- ・ 成功要因と課題の検証
- ・ その他、事業にとって重要な項目
- ・ 事業の妥当性の検証

(ハンドブック p.3)

団体が評価を有効活用できる状態になることを目指しています。

＜仮説＞

評価キャパシティの向上が社会課題の解決や仕組みづくりを促進させる上で重要

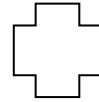
＜期待される評価の役割＞

- 具体的な社会課題を可視化する
- 有効な戦略を可視化する
- 事業実施プロセスを可視化する
- 成果を分かりやすい形で可視化する

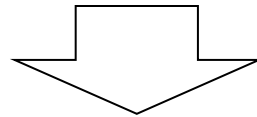
JANPIAは自己評価をどう使うのか？



集積された成功事例や課題を横断的かつ具体的に分析し、
社会の諸課題の解決を促進するための情報源としての活用を目指す



本制度の有効性について、
制度設計・具体的な戦略・制度の実施プロセス・制度で生まれた成果を**体系的に評価**



【本制度の目標】

- 1. 休眠預金活用事業による社会の諸課題の解決**
- 2. 社会の諸課題の解決のための自律的かつ持続的な仕組みの構築**

JANPIAは自己評価をどう使うのか？ ～制度開始期～



収集した評価報告書

横断的かつ具体的な分析

- ・ 社会の諸課題の解決および仕組みづくりに結びつく成功事例の分析、課題の分析
- ・ 自立した担い手の育成状況
など



3つの
目的

国民の理解を得る

- ・ 社会の諸課題の解決に
どう貢献しているか
- ・ 投入した資源は効率的に
活用されたか

事業の資源配分に反映する

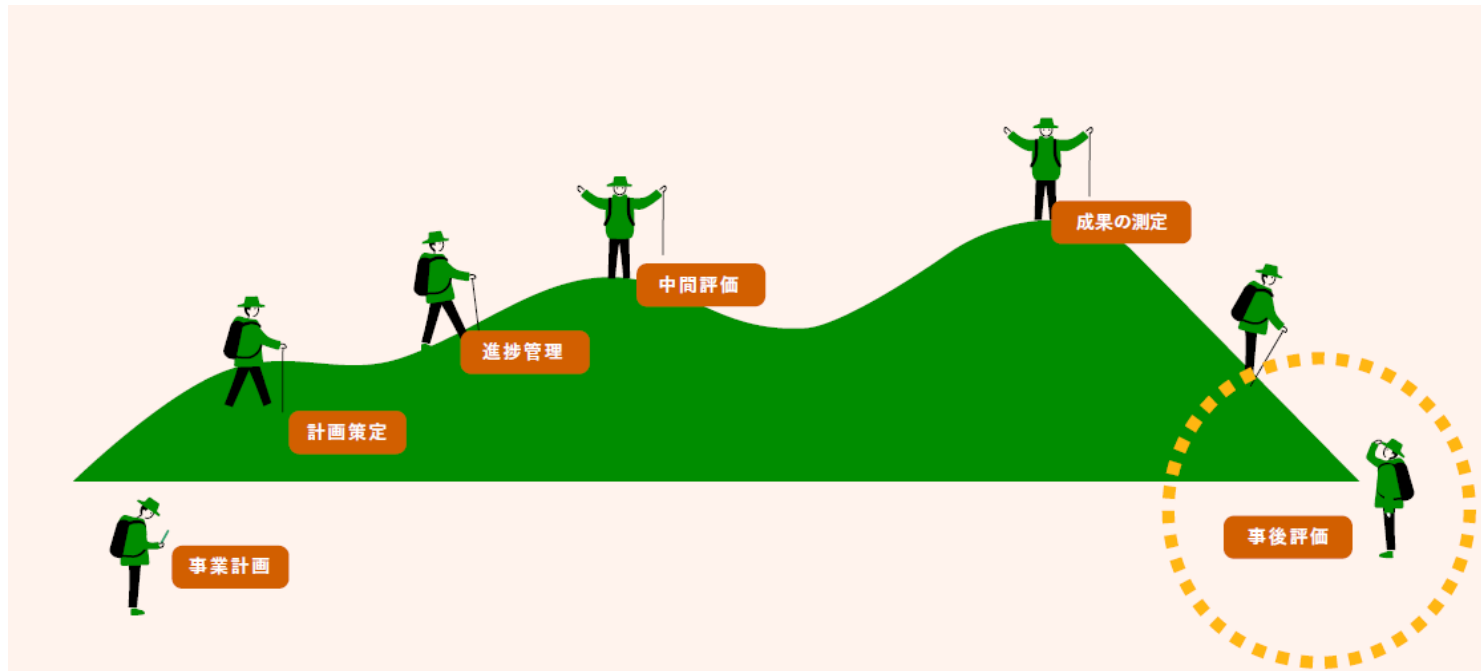
- ・ 実施中の事業の改善に
役立てられているか

活動の質の向上や発掘、
民間資金や人材の獲得

- ・ 評価を有効活用しているか

(ハンドブック p.3)

事後評価をどのように設計したか ～JANPIAの考え方～



ポイント1 事後評価とは何か？

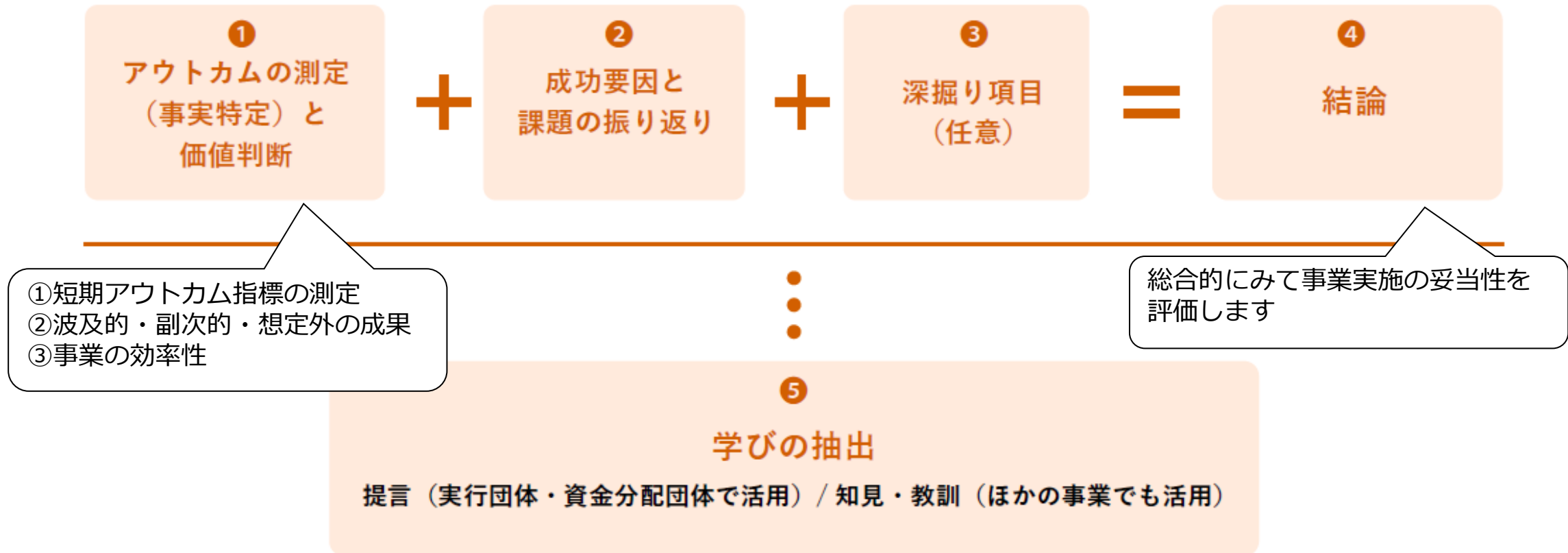


事業の価値の判断
=
事業実施の妥当性の検証

これまでの評価要素を振り返ります

- ・ 課題やニーズの適切性
- ・ 事業設計の適切性
- ・ 事業プロセスの適切性
- ・ 成果の達成状況

ポイント2 事後評価で行うことは何か？

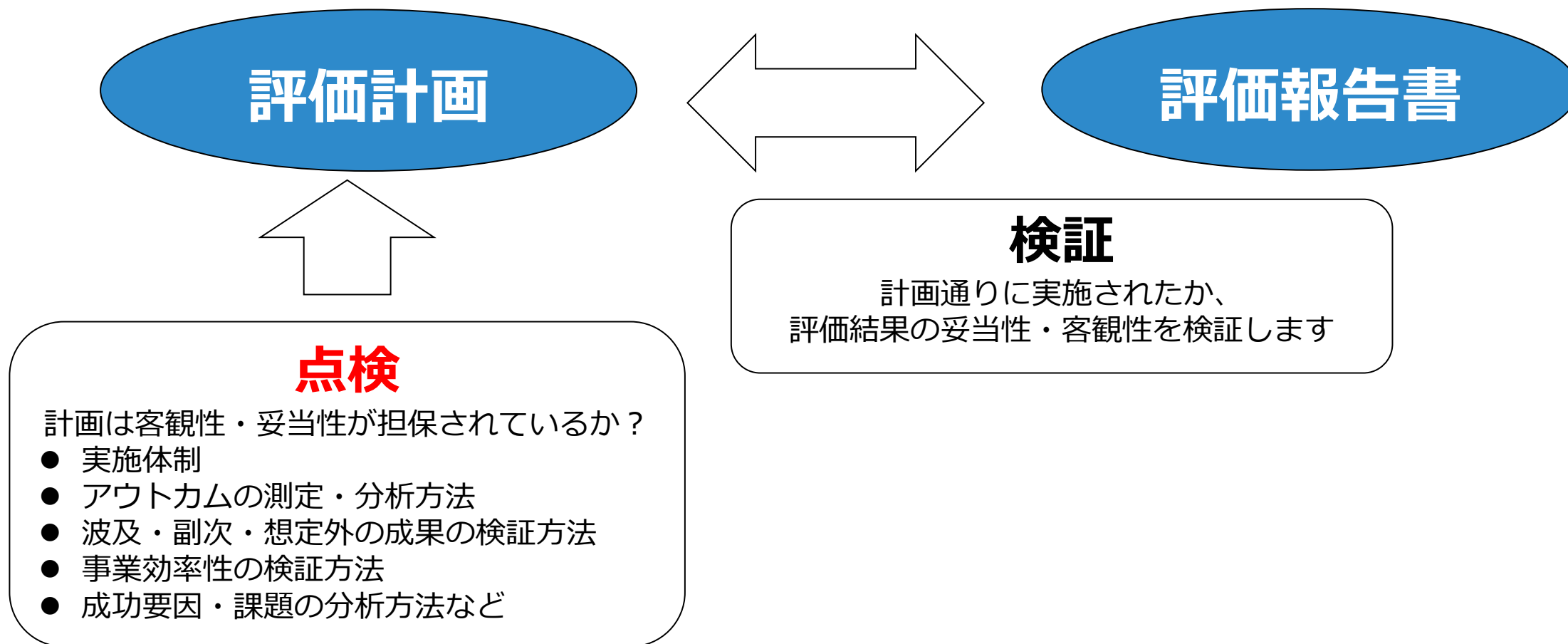


(ハンドブックp.7)

ポイント3 計画段階で評価の質の向上を目指す



評価実施前に点検を実施し、評価方法の客観性・妥当性を確認、自己評価の質の向上を目指します。



ワンポイント アドバイス



事業成果の考え方 ～アウトカムの測定にあたって～

アウトカムとは、社会に起きる望ましい変化、受益者や関係者、地域を取り巻く環境などへの変化をさします。社会課題の解決やその仕組みづくりを目指す休眠預金事業においては、多面的に関係者の声を情報収集することが重要です。

受益者の変化：受益者の意識・行動・状態・状況の変化など、本制度では事業による受益者の変化をアウトカムとして捉えることを重視しています。

実施者・支援団体の変化：モチベーションの向上、スキル向上、事業を継続する組織力などが、本事業によって、どのように変化したかをアウトカムとして捉えましょう。

地域・環境の変化：事業対象地域におけるエコシステムの形成、施策化など、事業を実施したことによる変化をアウトカムとして捉えましょう。本制度では助成終了後を見据えた仕組みづくりを重視しています。

(ハンドブックp.9)



□実行団体の活動のしやすさに対する貢献 (組織基盤強化、環境整備をどう可視化するか)

- 実行団体による事業活動の活性化（規模・質・内容の変化）
- 連携・協力団体の変化（増減）
- 賛同者、協力者の変化（増減、結び付き）
- 当事者の参加の活性化
- 学びあいの場の増加、活性化
- 行政や企業等と課題共有
- 政策への提言・反映
- 支援地域において様々な資源（様々な人・支援機関等）とのつながり
- 団体自身の変化（組織基盤強化・持続性の向上）

- ・ 休眠預金制度の性質上、
事業の効率性を評価することは重要と考えています。

例：

- ・ 投入した資源（ヒト・モノ・カネ）が最適かつ効率的に用いられたか
- ・ アウトプットやアウトカムを産出するために必要な資源の検証
- ・ 実行団体あたりの運営コスト など

本制度の評価では、「学びの抽出」を重視しています。

例：

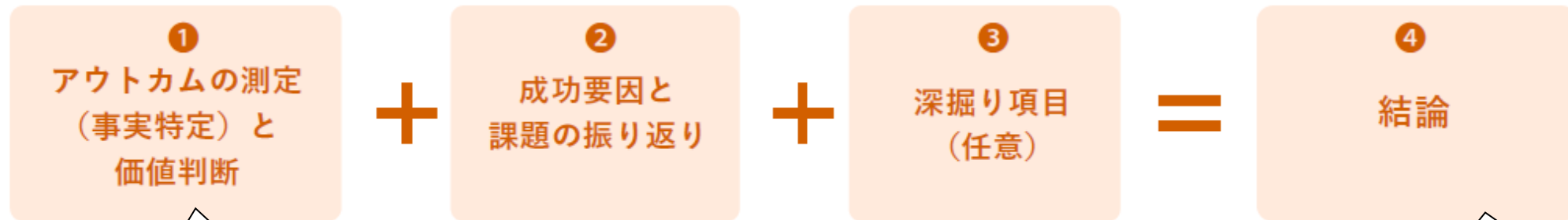
- どのような取り組み・工夫がアウトカム発現に効果的だったのか
- 何がアウトカム発現の障壁となったか
- 安定的かつ効率的な事業運営を可能とした要因（あるいは困難であった要因）
- 助成終了後の事業継続を可能とした要因（あるいは困難となった要因）

社会課題の解決に取り組む皆さんへの有益な情報源となる提言、知見・教訓の抽出を期待しています。

まとめ（事後評価ですること）



- ① 評価計画を皆で「点検」する
- ② 評価を実施する



①短期アウトカム指標の測定
②波及的・副次的・想定外の成果
③事業の効率性

総合的にみて事業実施の妥当性を
評価します

⑤

学びの抽出

提言（実行団体・資金分配団体で活用） / 知見・教訓（ほかの事業でも活用）

- ③ 評価報告書案を作成する
- ④ 評価報告書を検証する

(ハンドブックp.7)